

豊明市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会会議録

日時:2025年4月18日(金)午前10時30分～正午

場所:豊明市役所 新館1階会議室4

出席者

あいち尾東農業協同組合 安江委員、豊明市商工会 中野委員、中部経済産業局 北野委員、愛知県政策企画局 岡本委員(代理:石川様)、学校法人藤田学園 金田委員、学校法人桜花学園 根尾委員、とよあけ市民大学ひまわり 斎藤委員、株式会社中日新聞社 青山委員、市民公募 脇本委員、市民公募 濱松委員

合計 10名

欠席者

名古屋鉄道株式会社 尾関委員、連合愛知尾張東地域協議会 佐藤委員

合計 2名

1. 開会

(1)あいさつ

(委員長あいさつ)

このまち・ひと・しごと創生総合戦略も2015年から始まっているため、今年がちょうど節目の10年目となります。政府もバージョン2.0として新しい形に進もうとしています。私も最初からずっと関わらせていただいております。豊明市の総合戦略は着実にかなりの部分で成果が出ていると感じます。他の自治体から見ても、おそらく進んでいる自治体の1つと感じています。この会議の中でも皆様から次に進むための忌憚のないご意見をいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

(市長あいさつ)

大変お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。まち・ひと・しごと創生総合戦略はもともと、人口の極端な減少社会を迎えるにあたって、人口問題をどうするかという形で、まち・ひと・しごと創生総合戦略を各市町村で策定し進行管理している状態です。豊明市の場合では、残念ながら一定程度自然減や社会的な流出が起きています。自分たちの考えとしては、ベッドタウンであるため、長く住んでいただきたいと思っている。また、それぞれの年齢層の方々に自分のことも肯定いただきたい。自分のことが好きであってほしい、自分がとても幸せだと感じていただきたい。さらに、自分が住んでいる豊明市のこと好きであってほしい。ここにずっと住みたいと思っていただけるまちにしていかないと

いけないと思っています。現在総合計画という市の最上位計画を並行して策定しており、このまち・ひと・しごと創生総合戦略を統合していきたいと考えています。総合計画を策定する中でも子どもたちの意見を直接踏まえた状態で施策を展開していきたいと考えています。18歳未満の子どもたちの意見がなかなか吸い上げられない状態にあります。どの年齢層の方々についても自分たちは情報収集してそれを施策に反映していきたいと考えています。そういった視点で今日もご議論いただけましたら幸いです。忌憚のないご意見をどうぞよろしくお願い申し上げます。

(2) 新任委員紹介等

(事務局)

本日は、名古屋鉄道株式会社の尾関委員、連合愛知尾張東地域協議会の佐藤委員より欠席の連絡をいただいています。また、人事異動等により新たに2名の新任委員を紹介いたします。

<各委員自己紹介>

(3) 委員会の公開について

事務局(企画政策課長)より説明

傍聴人0名

2. 議題

(1) 第2期豊明市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価結果について

事務局(企画政策課長)より資料1に基づき説明

● 質疑

(石川様)

空き店舗を活用した活性化事業について、実績が0件であるが、0である課題や要因等を教えてほしい。

(経済建設部長)

空き店舗自体は豊明市内に数多くあるが、貸し出しができていない状況にある。

(市長)

補足すると、もともと施策的に自分が進めている事業で、地域の集会所が足りないといわれているため、空き店舗を地域の集会所に活用していただく場合に半分補助する形になっている。三崎区では「egao 家」という地域の方が集まる場所を作っていただいてそれは成功例だったが、他の地域ではそういった流れになっていない。

また、空き店舗は非常に多いが、不動産市場に賃貸物件として出てこず、逆に足りていな

い状況となっている。貸してしまうと自由に売買できないため、オーナーが売り時を見計らって貸さないため、非常に借りにくい状態になっている。

(協本委員)

1点目が、目標値を達成できそうなものと極端に達成が難しそうなものとあるが、目標値を定めた根拠を知りたい。2点目が起業創業件数は倍以上を目標にしているが、私自身も豊明を本拠地にする法人を2つ設立しているので、もう少し起業創業する人にやさしい地域であってほしいというお願いをしたい。

(事務局)

目標値設定については、KPI はほとんどが総合計画で定めているまちづくり指標を引用している。まちづくり指標は市民の皆様と一緒に目標値を定めているため、期待感もあり高い目標となっているものもある。目標値を超える実績が出ている指標もあるし、達成が難しい指標もあるが、着々と進んでいると事務局としては整理している。

(経済建設部長)

創業セミナーについては年 1 回 4 市町合同で実施をしている。図書館で関連コーナーを設置して PR を行っている。

(市長)

今年度、商工会とも連携を取りながら、既存の事業者に対しては決済のデジタル化など補助金を創設している。もともとは新規創業者に対しての支援メニューを入れていたが、今年度の予算を立てるのに苦労したため、2段階に分けて今年度はまず既存事業者へ、来年度から新規創業者に対しての補助金を新たに創設することとなった。

(根尾委員長)

全項目のうち 38.9%が目標に向けて進捗となっているが、低く感じる。基準が2019年のためコロナ前の社会から変化していると思うが、達成ではなくとも進捗が4割ぐらいは低いと感じるがそのあたりはいかがか。

(事務局)

指標には主観指標と客観指標があり、主観指標についてはその時々社会情勢や国に対する不安が高まると市に対する不満も高まりやすいという傾向があるため、そのような要因で主観指標は下がっている傾向にあると分析している。客観指標については人口に関する項目が多いため、達成が難しい状況となっている。

(2)人口ビジョン及び次期総合戦略の素案について

事務局(企画政策課長)より資料 2、3 に基づき説明

● 質疑

(青山委員)

豊明市に愛着を感じている人が45.5%、誇りを感じている人が24.7%とのことだが、おそらく近隣の市町も同じような調査をされていると思うが、近隣と比較しても低いという認識で良いのか。また、低い理由について市ではどのように分析しているのか。

(事務局)

近隣との比較は行っていないため回答できない。低い要因については、総合計画をつくるにあたってアンケートやインタビューを実施したところ豊明市の特徴となるものがあまり市民に実感がないと思われる。

(市長)

皆様ご存じのように、藤田医科大学病院や花き卸売市場、中京競馬場など日本を代表する施設がいくつかあるが、それらは全市民が利用するような施設ではない。誰もが利用するショッピングセンターや遊園地、公園がなく、自慢するようなものがないとどの年齢層からも言われているのは自覚している。今の時代として箱モノをつくることはそぐわないと思うため、ソフト事業として市民の皆様と一緒にやっていきたいと考えている。

(石川様)

KPI が戦略の柱ごとに設定されており、そのほとんどが「～と思う市民の割合」という設定になっており、市民へアンケートを実施することになると思う。アンケートは毎年実施するのか、対象人数は何人ぐらいを想定しているのか。市民の意見だと感情に左右される部分もあるかと思うが、対象は毎回同じ人にするのか、変更するのか。また、子どもたちの意見を直接聴取したいとのことだが、こういったやり方を検討しているのか。

(事務局)

アンケートは毎年実施し、対象者は無作為抽出の市民3,000人で抽出は毎年行う。年度ごとに回答者によって回答にばらつきがあるため、年齢や地域などでクロスをかけて分析していきたい。戦略1において、子どもアンケートの指標を設定しており、市内の小学5年生と中学2年生を対象にアンケートを実施する。総合計画の中で子どもに聞く設問を20個ほど設定しているため、そういったところで子どもの意見を聞いていきたいと考えている。

(教育長)

現在、タブレット端末を使って簡単に意見を集約できるようになっている。そのため全小学5年生と中学2年生に毎年アンケートを実施することになっている。

(北野委員)

特に若者や女性などが外に出てしまう中で、市内で働きたくなる、働く場所として選ばれるためのまちづくりは重要だと思っている。起業支援や工場の誘致などの記載があるが、それ以外にも今ある事業者や工場などで働きやすい環境をつくることも大事だと思う。多

様な働き方を支える仕組みをつくるという話があったが、短時間でも働けるとか、副業・兼業、製造業の現場であっても女性が活躍できるような場所をつくるといったことも考えていく必要があると思うので、働きやすい職場環境というところを推進していただければと思っている。

(事務局)

働きやすい環境への取り組みとしては、子連れ出勤を実施している。まず市役所で実証的に行って、市から補助金を出すなど企業にも広げている。市内の事業者の皆様と連携しながら働きやすい職場環境への取り組みを進めていきたいと考えている。

(市長)

補足すると、子連れ出勤というのは毎日子どもを連れて仕事に来るわけではない。例えば、保育園を卒園して小学校に入学するまでの隙間などが出てくる。そこで保護者がずっと有給休暇を取らなければならないとなると非常に働きにくいと認識している。そういった女性の働くことへの障壁などを当たり前に受け入れられるような空気感を作っていくために、子連れ出勤を市役所主導で進めている。

子連れ出勤は象徴的な事業としてあるだけで、それぞれの人の希望に合わせた状態で働きやすい環境をつくっていくことが喫緊の課題としてやっていかないと認識している。

(協本委員)

アンケートの回答者が67,000人のうち大体4%ほどとなると統計学的に少ないように感じる。学校だったらタブレットで回答と言われていたように、時代の変化とともに技術が進歩したことでアンケートも取りやすくなっているかと思う。予算などもあるとは思いますが、より多くの人にアンケートの機会を提供できるような取り組みを検討していただいてもよいのではと意見させていただく。

(中野委員)

豊明市の特徴や売りは名鉄名古屋本線が通っていることだと思う。駅周辺の人口をどうするかは長年の課題だと思うが、学校施設などのキャパシティは対応できているのか。

(教育長)

以前はもっと子どもが多くいたため、今の学校で十分まかなえると思う。現在間米南部地区で区画整理をやっており、近くの学校の校舎が足りなくなる可能性があるため、準備を進めている。

(中野委員)

子どものころに故郷での思い出があるとその後住んでいただくことが多いと聞いた。思い出づくりという点に対して商工会で頑張っているところである。祭りなどを担っているのは

中小・小規模事業者であるが、後継者がいなくてももう店がなくなってしまうといった状態が起きている。そんな中でも、新たに青年部になられたメンバーが、40年以上続いている居酒屋が廃業したそのあとに居抜きで入られると聞いた。活力をもって取り組んでいる経営者もいるため、起業創業できるような環境を整えていただきたい。将来はそういった中小・小規模事業者がお祭りを作ったり、地域を盛り上げていただいたりすると思うので検討いただきたいと思う。

(市長)

来年度新規創業者の方へ補助金を出すため、それに対する反応によって拠点を作っていくのか、現在、愛知県で STATION Ai を拠点としているため、そこに乘っかってやっていくべきか判断していきたい。

(金田委員)

学生や40歳以下の職員に新聞を読むか聞くと、誰も読んでいない。テレビもあまり見えず、ほとんどの情報を SNS で得ている。学生に豊明市の情報を見てくださいというと、市のホームページが非常にしょぼい、高齢者向けだと言う。これだけの施策をやっているのにプロパガンダが結びついていない。みんなに見てもらうためには SNS を使う必要があると思う。

また、学生や新人職員はふるさと納税についても気にしていた。例えば、同じ法人の三重県にある病院ではふるさと納税で健診をやっている。ふるさと納税の中でもっとプロパガンダできるようなものも作れるのではないか。例えば花き市場があるならお祝いの日に豪華な花を贈るような取り組みなど。プロパガンダがものすごく遅れているので、そこに傾注しないと若い人たちが寄ってこない。豊明市は地域包括ケア豊明モデルとして全国から視察件数も多く、全国の市町村の地域包括に関わる人材育成も実施している。そういったものをもっとプロパガンダしていただきながら、宣伝の仕方を考えていただきたい。

(副市長)

SNSの件は少し前から市長からも指示をいただいて、広報に若いSNS担当を置いて取り組んでいるが、なかなか実現できていない。市の情報取得についてのアンケートをするとまだ7割ぐらいが広報紙から情報を得ており、豊明市民ではまだ紙ベースが多いことが分かった。アンケートについても一気に電子側にしてしまうと市民全体の意見ではなくなってしまう懸念もある。SNSの重要性は他県の選挙でもあったように、影響力を持っていると感じているため、ご指示・ご指摘いただいたためもう一歩力を入れて取り組んでいきたい。

(金田委員)

市民の7割が広報紙から市の情報を得ているというのは疑問に感じる。50代や40代以下の人たちとは文化が全く違うということを理解して取り組んでいかないと間に合わない。我々が常識だと思ったことが通用しなくなっている。豊明市のホームページがしょぼすぎるとそこでおしまいになってしまう。

(市長)

市のホームページは行政として出さなければならない情報もあるため、どうしても固くなってしまう。市外の人は広報紙を見ないため、先生のおっしゃっていることと副市長の回答にギャップが生じている。今後は LINE を活用して情報発信の体制を構築していく。市民だけでなく、市外から市内の大学や高校に通われている人にも情報発信をしていく必要があると強く感じた。

また、ふるさと納税についてはおかげさまで藤田医科大学様のご協力をいただいていると同時に理事長様から様々なご協力の提案をいただいているため、どうぞよろしくお願いいたします。

(安江委員)

個人農家をやっているが、食の安全と安定した需要・供給がないと生業としてやっていけない。子どもが作物に触れる機会や経験が少なくなっているため、産直等を活用してそうした機会を作ってほしい。子どもが1年に1回いろんな学校から来てくれるが、目を輝かせて体験してくれている。農業を理解してもらえないのではなく、その機会がないだけだと思うため、そういうことも入れていただけたらありがたい。

(市長)

産直センターの南側のところに今年度 JA が農地をきれいにされて、そこで新しく新規就農者の訓練と農業体験の2つの目的で整備しており、事業として展開していく。貸農園も色々なところにあるが、まずはハードルを低くして、家族連れが気軽に体験し子どもが作物を作って自分で食べることが楽しくて、ずっとやっていきたいと思ってもらえる状態にしないといけない。この農園は JA に任せきり、やりっ放しにならないように多くの人たちに体験してもらえる状態にしていけないと思う。

(経済建設部長)

親子で学ぶ農業塾を JA がやっている。PR 不足の部分もあるかと思うが、皆さんに知っていただけるようにしたいと思っている。

(濱松委員)

息子が今東京に出ているが、戻ってくるときに前後駅を降りたところに昔は「花のまちとよあけ」という看板があったが、あれがなんでなくなっちゃったのかと話題に出た。息子なりに花のまちを自分のふるさとの特徴として捉えていたと思った。また、娘が刈谷市の高校へ通っているが、高校で信長を絡めて何かやった際に、のぶながくんは豊明のものなのと言っていたので、やはり子どもの中にそういったものは根付いているのだと感じた。

(市長)

花のまち事業というのは商工会が中心にやっていた事業で、花の生産者が以前は結構いらっしまったが、軒並み撤退されて花がある場所がほとんどなくなってしまったという背景

もあり、花マルシェ事業として展開する形に変更した。前後駅の広場は名鉄のホームの屋根を兼ねている部分で、そもそも人が集う場所としてつくられているわけではない。以前は荒れ放題だったが、地元の老人クラブの方々が花を植えてきれいに維持していただいている。花き市場はそもそも卸売市場のため、たくさんの鉢物が集まるが、一般の人は関与しない状態になっている。花き市場さんにもご協力いただいて年に数回かきつばたなど珍しい花を見られるようにイベントを行っている。そういったことが市民には十分に伝わっていない状態で事業を展開してしまっているため、情報発信不足が大きな問題だと感じている。

また、桶狭間の戦いがあった地であり、信長は拠点があったわけではないので、よしとくんもセットでお願いしたい。

(根尾委員長)

ちなみに、花のまちとよあけのキャッチフレーズ自体なくなったのか。

(市長)

なくなったわけではないが、事業として展開されなくなって商工会は花マルシェプロジェクトに協力いただいている状態になっているため使う場面がなくなっている。

(斉藤委員)

情報は広報より LINE と Instagram で入手している。かきつばたまつりもできるだけ毎年行くようにしている。結構混みあっているが、一部の人にしか知られていない感じがする。もっと今こういうことをやっていますよとか、何時までやっていますよとかを発信してもらえと行ってみるきっかけになると思う。

また、ふるさと納税で子どもの看護師体験などがあっても楽しいと思う。

(根尾委員長)

人口ビジョン及び次期総合戦略の素案について、承認ということによろしいでしょうか。

(異議なし)

(根尾委員長)

他に質問や意見はないか。

ないようなので本日の議題は終了し、事務局へお返すする。

(事務局)

ありがとうございました。以上で委員会を終了する。

以上

2025(令和 7)年度第1回 豊明市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会 次第

日時 2025 年 4 月 18 日(金)

午前 10 時 30 分～正午

会場 豊明市役所 新館1階 会議室 4

1. 開会

2. 議題

- (1)第2期豊明市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価結果について
- (2)人口ビジョン及び次期総合戦略の素案について

3. その他

■ 配布資料

資料 1…第2期豊明市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価結果について

資料 2…人口ビジョンについて

資料 3…第3期総合戦略素案

豊明市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会 委員一覧

2025年4月1日現在

氏名		所 属(役職等)	要件	備考
1	安江 真理子	あいち尾東農業協同組合 豊明地域非常勤理事	関係機関及び団 体の代表	
2	中野 敏宏	豊明市商工会 副会長	関係機関及び団 体の代表	
3	尾関 謙治	名古屋鉄道株式会社 地域活性化推進本部 まちづくり推進部長	関係機関及び団 体の代表	
4	北野 昌美	中部経済産業局 地域経済部 地域振興・人材政 策課長	関係機関及び団 体の代表	
5	岡本 晃範	愛知県政策企画局 企画調整部地方創生課長	関係機関及び団 体の代表	
6	金田 嘉清	学校法人藤田学園 藤田医科大学 副学長	学識経験を有す るもの	
7	根尾 文彦	学校法人桜花学園 学芸学部 教授	学識経験を有す るもの	
8	佐藤 元紀	連合愛知尾張東地域協議会 副代表	関係機関及び団 体の代表	
9	斎藤 純恵	とよあけ市民大学ひまわり 男女共同参画懇話会委員	関係機関及び団 体の代表	
10	青山 直樹	中日新聞 日進通信部 記者	関係機関及び団 体の代表	
11	脇本 泰志	市民公募	公募により選出 された市民	
12	濱松 美保	市民公募(再任)	公募により選出 された市民	

任期:2024年7月1日から2027年6月30日まで

第2期「豊明市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の評価結果

1. 基本目標における指標及び創生事業における KPI の進捗結果

第2期総合戦略については、基本目標ごとに指標を設定し、指標における目標値を達成するために、基本目標に紐づく施策である「創生事業」に重要業績評価指標(KPI)を設定することで進捗管理を行ってきました。

2023年度の実績を国の評価方法に準じて評価した結果、基本目標における指標については、全項目のうち38.9%が目標に向け進捗しており、KPIについては全項目のうち、67.6%が目標に向け進捗しているという結果となりました。各基本目標の進捗内訳は次のとおりです

基本目標		①目標達成に向け進捗している	②現時点では目標達成に向けた政策効果が必ずしも十分に発現していない	③現時点では、統計上実績値の把握不可能なもの※
1	指標	1項目(25.0%)	3項目(75.0%)	0項目
	KPI	5項目(55.6%)	4項目(44.4%)	0項目
2	指標	2項目(40.0%)	3項目(60.0%)	0項目
	KPI	6項目(66.7%)	3項目(33.3%)	0項目
3	指標	3項目(50.0%)	3項目(50.0%)	0項目
	KPI	8項目(72.7%)	2項目(18.2%)	1項目(9.1%)
4	指標	1項目(33.3%)	2項目(66.7%)	0項目
	KPI	6項目(75.0%)	2項目(25.0%)	0項目

※③については外的要因等により実施が困難なもの、未実施のもの等

基本目標 1 しごとと活力創生プロジェクトの評価結果

法人市民税額の減少については、法改正等による影響があり、また市民のうち市内で働きたいと思っている若者の割合など他の指標についても減少傾向にあります。引き続き、企業立地支援等により働き場所の整備を進めるだけでなく、多様な働き方を支える仕組みを充実し働きやすい職場を整備することで、市民のみでなく市外の人からも働く場として選ばれるまちをつくる必要があります。

基本目標 2 ひとが集うまち創生プロジェクトの評価結果

住居系市街地の整備促進事業においては、予定通り整備が進められており、住み続けられる住宅・環境が整備されています。とよあけ花マルシェ商品の販売金額や観光Webサイト年間閲覧件数、転入者数や市内のイベント、お店、施設がメディアで紹介された件数などが目標値を達成しており、市全体の魅力づくりには一定の効果を示すことができました。市民意識調査では豊明市に愛着を感じている人の割合が45.5%となっている一方で、誇りがある人やオススメしたい人の割合が30%未満と低くなっています。第3期総合戦略では、地域資源を活かしたまちづくりを推進し、さらにまちへの誇りの醸成を図ります。

基本目標 3 子どもの学びと育ち創生プロジェクトの評価結果

市内 1,000 人あたりの出生率や合計特殊出生率、0～14 歳の子どもの数などは横ばいもしくは減少していますが、待機児童数や土曜日延長保育実施割合、共生交流プラザの延べ利用人数については目標値を達成しています。第3期総合戦略では、子育て世代が安心して住み続けられるのみでなく、子どもの視点に立った施策を展開していきます。

基本目標 4 暮らしの満足創生プロジェクトの評価結果

医療や福祉施設、制度利用者の満足度やおたがいさまセンター「ちゃっと」のサポーター登録者数など目標値は達成していないものの、比較的高い水準で推移しています。2024年度に重層支援センターが開設し、市役所の関係課、関係機関を横断した支援体制が整備されました。第3期総合戦略では、さらに重層的支援体制の充実を図り、誰もがふつうに暮らせるまちをつくるとともに、楽しく元気に活動できるまちづくりを目指します。

2. 地方創生関係交付金対象事業

2024 年度、国が新たな地方創生施策として「地方創生 2.0」を展開する中で、「デジタル田園都市国家構想交付金」を発展させた「新しい地方経済・生活環境創生交付金」が創設されました。第2期総合戦略では、デジタル実装に重点を置きながら、次の事業について本交付金を活用(予定)しています。第3期総合戦略においても、地方創生関係交付金を積極的に活用できるよう、デジタル技術を活用した地域の課題解決に資する取り組みや、市の自主性と創意工夫に基づく地域の多様な主体者の参画を通じた地方創生に資する地域独自の取り組みを引き続き推進していきます。

【地方創生関係交付金対象事業】

事業名	事業期間	交付金総額
保育園 ICT 化推進事業	2024	14,827 千円
行政手続きデジタル実装推進事業	2025	6,336 千円
介護認定審査会ペーパーレス化導入事業	2025	2,463 千円
電子黒板を活用した GIGA スクール構想環境整備推進事業	2025	60,715 千円
窓口予約・キャッシュレス化推進事業	2025	2,652 千円

※2025 年度申請分については交付予定額

人口ビジョンについて

1. 第2期総合戦略人口ビジョンについて

本市は、「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、国・愛知県の「長期ビジョン」を勘案しつつ、目指すべき将来の方向や、2060年までの人口の将来展望を提示する「豊明市人口ビジョン」を策定しています。人口ビジョンにおける推計では、合計特殊出生率を2040年に1.8に上昇させ、社会移動については区画整理事業などの開発による人口増加を考慮し、2025年に71,000人、2060年に61,000人の人口を確保する目標となっていました。実際には、2025年3月1日現在の人口は67,812人となっており、目標人口を下回る結果となりました。

そのため、人口ビジョンを見直し、現在の状況をもとに持続的な地域運営を目指していく必要があります。

2. 次期人口ビジョンについて

全国的に人口減少が進む中、国立社会保障・人口問題研究所によれば本市も2040年には63,000人程度まで減少すると推計されています。これに対し、市外流出人口の抑制と市内に住み続けることができる受け皿を確保することを目的とした土地区画整理事業を実施しており、道路、公園などの都市基盤と居住環境の整備を図るとともに宅地の利用増進を目指しています。さらに、子育てしやすく、住みやすいまちづくりを積極的に推進することで、2031年(令和13年)時点で68,000人以上を目標とします。なお、第3期総合戦略を第6次総合計画と一体策定するにあたり、総合計画における人口推計を人口ビジョンとして位置づけることとします。

【人口推計の見通し】

○純移動率

純移動率がマイナスとなっている世代のうち、特に抑制したい世代(30代、40代)と、その世代の子ども(0歳～9歳)の流出を以下の表のとおり想定し、流出抑制を図る。

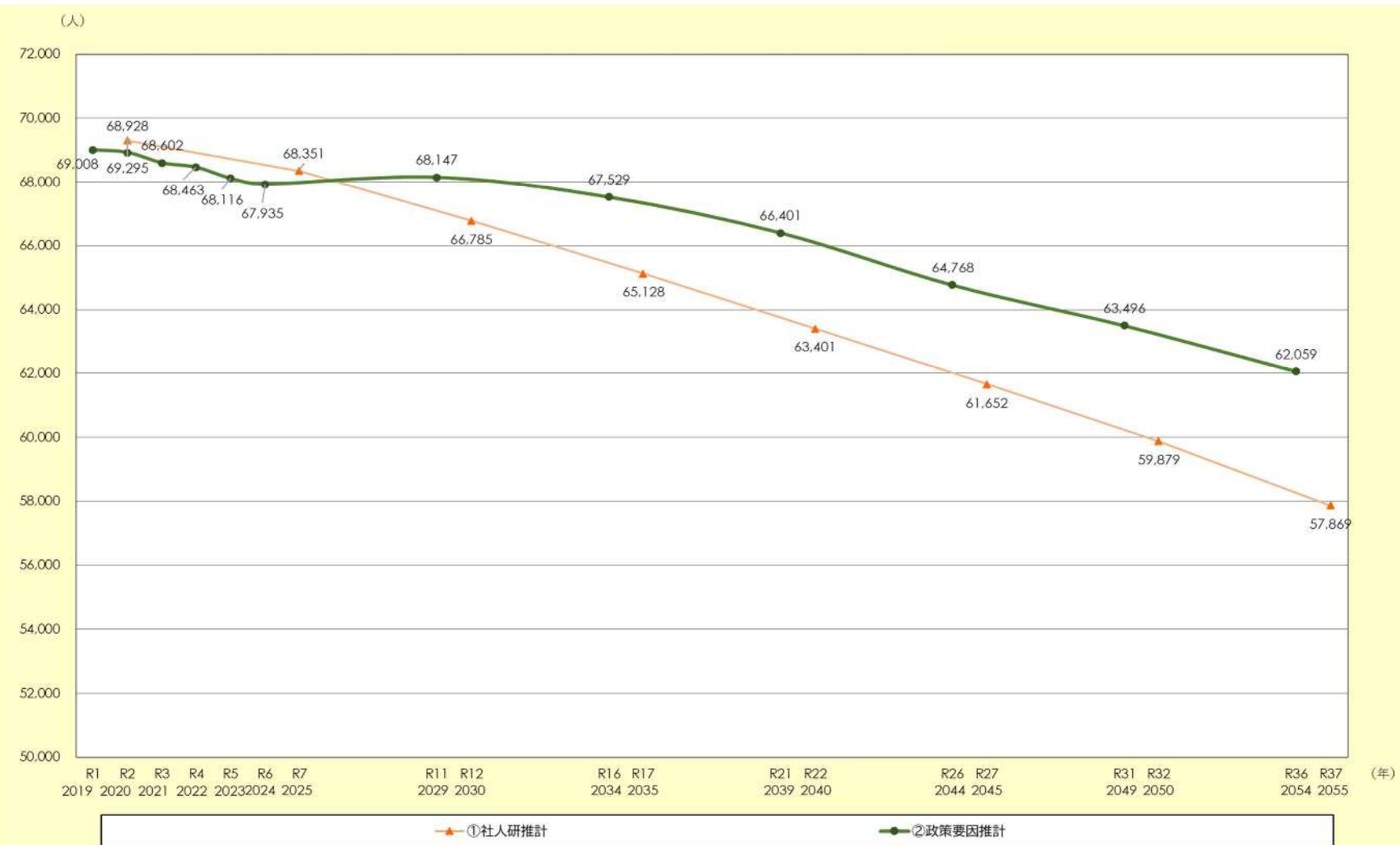
2029年	2034年	2039年	以降
マイナスを0に	絶対値×0.75	絶対値×0.5	2039年の数値を継続

○合計特殊出生率(15歳から49歳までの一人の女性が一生に産む子供の数の平均値)
さまざまな価値観が増えてきた中で、合計特殊出生率を向上させるといった目標は適切ではないと考えるが、コロナ禍による産み控えもあったことから、コロナ前の実績も踏まえ段階的に回復させることを目指す。

2029年	2034年	2039年	以降
1.35	1.40	1.45	2039年の数値を継続

○土地区画整理事業など(寺池地区、間米南部地区、二村台一丁目)の影響を加算

※過去の実績等を参考に転入者の年齢層、市外からの転入率等を設定



第3編 基本計画

4. 総合戦略(重点戦略)

本計画策定にあたり実施した市民意識調査では、「ずっと住みたい人」と「しばらくは住みたい人」の割合があわせて80.0%と高くなっています。一方で、年代別で見ると16－19歳が67.1%、20代が68.4%と若者の割合が低くなっています。それに加え、近隣市町と比較すると高齢化率が高く、人口減少が早く進んでいくことが考えられます。

また、「豊明市に愛着を感じている人」の割合は45.5%となっている一方で、誇りを感じている人の割合は24.7%、オススメしたい人の割合は28.5%と低くなっており、各種インタビューにおいても外から人を呼び込めるほどの魅力が少なく感じている市民が多いことも課題となっており、豊明市が居住地として選ばれ、住み続けたいくなるようなまちづくりに取り組むことが求められます。

そこで、本計画で掲げる将来都市像「未来へつなぐ みんなでつくる しあわせのまちとよあけ」を実現するとともに、誰もが安心して住み続けられ若者・女性にも選ばれるまちづくりを進めるため、総合戦略を本計画の重点戦略として位置づけます。

総合戦略は分野別計画と一体的に施策の推進を図り、効果的で効率的な成果を得るとともに、重要業績評価指標(KPI)の設定・進捗管理により、継続的に戦略の改善を行います。

加えて、策定にあたっては以下の4つの観点を重視しつつ、基本構想の施策大綱で整理した4つの分野と整合を図る形で戦略【プロジェクト】を設定したうえで、当該分野内での単位施策を中心に施策を構成しますが、分野や庁内の部署などにとらわれることなく、横断的で総合的な取り組みの展開を図ります。

観点1	子どもの視点に立った施策を展開する
観点2	誰もがふつうに暮らせる地域をつくる
観点3	若者・女性の転出を抑制する
観点4	地域の魅力を向上し、まちへの愛着を醸成し情報を発信する

戦略【プロジェクト】	施策
戦略1 子どもの育ちと学び創生プロジェクト	施策1:子どもが自分らしく過ごせる居場所をつくる 施策2:子どもを安心して産み育てられるまちをつくる 施策3:地域全体で子どもの主体性を育む環境を整える
戦略2 暮らしの安心創生プロジェクト	施策1:誰もが安心して、ふつうに暮らせるまちをつくる 施策2:市民が互いに支えあい、楽しく元気に活動できるまちをつくる
戦略3 安全で快適な地域環境創生プロジェクト	施策1:生活に不自由なく便利なまちをつくる 施策2:快適な居住環境と自然・公園が調和するまちをつくる 施策3:多様な人が関わる機会を充実させ、地域でのつながりをつくる
戦略4 ひとが集うまち創生プロジェクト	施策1:地域資源を活かしたまちづくりを進め、誇り・愛着を形成する 施策2:働きやすい環境を整備し、働く場所として選ばれるまちをつくる

戦略1 子どもの育ちと学び創生プロジェクト

子どもの育ちと学び創生プロジェクトでは、子どもが自分自身を肯定し、自分らしく過ごすための環境づくりに取り組みます。また、子育てをする人が安心して子どもを生育てられるまちをつくり、地域ぐるみで子どもを支え、見守るといった子どもの周辺環境を整えるための取り組みを推進します。

重要業績評価指標(KPI)

指標名	現状値 2025 年度	目標値 2031 年度
こどもが心豊かに育ち、子育て世代が住み続けられるまちだと思ふ市民の割合	●%	●%
多様性を尊重した学びの場が広がり、子どもたちが一人残らず心満たされるまちだと思ふ市民の割合	●%	●%
自分のことが好きな子どもの割合	●%	●%
0～14歳の子どもの数	●人	●人

施策1:子どもが自分らしく過ごせる居場所をつくる

概要	主な取り組み
子どもが自分自身を好きになり、自分らしく過ごせるように、居場所づくりや不登校支援に取り組みます。 また、子どもの視点に立ち、一人ひとりの子どもが個人として尊重される地域社会づくりに向けて、子どもの権利条例の制定を進めるとともに、理解促進に努めます。 併せて、子どもが安心して遊べるようにするとともに、家族や友達と遊びに行きたくなる魅力的な公園への再整備を目指します。	・放課後子ども教室、児童クラブ ・児童館運営事業 ・地域クラブ運営事業 ・地域塾 ・共生交流プラザ運営事業 ・子どもの権利条例制定 ・公園施設整備 ・校内フリースクール、フレンドひまわり

施策2:子どもを安心して産み育てられるまちをつくる

概要	主な取り組み
多様な保育ニーズに対応するため、保育環境の充実を図ります。 また、豊明市で子育てがしたい、あるいは子育てがしやすいまちと感じられるよう、妊娠から出産後まで切れ目のないサポートを提供し、ひとり親家庭や外国にルーツを持つ人々も、気軽に子育て相談等ができる体制を整えます。	・延長保育 ・保育所整備事業 ・こども誰でも通園制度(乳児等通園支援事業) ・病児・病後児保育 ・こども家庭センター ・新入学祝い金 ・図書館の読み聞かせ ・子育て支援センター、児童発達支援センター ・子ども医療費助成

施策3:地域全体で子どもの主体性を育む環境を整える

概要	主な取り組み
子ども自身や保護者等のみならず、地域全体で子どもの個々の問題に向き合い、解決に向け、少しでも前向きに進むため、スクールソーシャルワーカーやNPO等の多様な主体と連携し、子どもを支える環境づくりに努めます。 また、児童の登下校の見守りや地域の祭り・イベントに子どもが関わること等を通じて、子どもの地域への愛着を醸成するとともに、子どもが主体的に活動できるよう支援します。 併せて、質の高い学びに参加できるよう、教育内容や教育環境の変化に対応したICT環境の充実を図ります。	・GIGA スクール構想 ・SC、SSW の充実 ・日本語指導支援、外国にルーツを持つ子どもへの支援 ・地域の見守り ・地域の祭り ・スポーツ振興 ・英検補助

戦略2 暮らしの安心創生プロジェクト

暮らしの安心創生プロジェクトでは、誰もが「ふつうに暮らせるしあわせ」を実感できるまちづくりをより一層進めるとともに、市民一人ひとりが生きがいを持ち、支えあいながら、元気で楽しく過ごすための取り組みを行います。

重要業績評価指標(KPI)

指標名	現状値 2025年度	目標値 2031年度
医療や介護の環境が整っており、誰もが安心して暮らせるまちだと思う市民の割合	●%	●%
人と人が寄り添い、つながりながら支えあうまちだと思う市民の割合	●%	●%
誰もが健康で楽しく活動できるまちだと思う市民の割合	●%	●%

施策1:誰もが安心して、ふつうに暮らせるまちをつくる

概要	主な取り組み
誰もが「ふつうに暮らせるしあわせ」を実感し、日常生活を営むことができる地域共生社会を築くため、医療や介護の枠を超えて、住民、大学、企業等、地域の様々な主体が関わり、市民一人ひとりの暮らしに寄り添うことで、重層的支援体制のさらなる充実を図ります。	・重層的支援体制整備事業 ・医療介護連携推進事業 ・けやきいきいきプロジェクト ・孤立・孤独対策 ・地域包括ケア ・ユニバーサル就労支援

施策2:市民が互いに支えあい、楽しく元気に活動できるまちをつくる

概要	主な取り組み
市民同士がお互いに気かけ合いながら、支え合う地域社会をつくるため、「おたがいさまセンターちゃっと」をはじめ、市民同士がゆるく、無理のない範囲で生活の困りごとを解決し合える環境づくりに励みます。 また、一人ひとりが生きがいを持ち、元気に活動できるまちをつくるため、共生交流プラザ「カラット」等で市民大学「ひまわり」をはじめ、スポーツや文化活動、趣味の活動に楽しく取り組む環境を整えます。	・おたがいさまセンターちゃっと ・あいさつ運動 ・健康ウォーキング、市民歩け歩け運動 ・市民大学ひまわり ・共生交流プラザ運営事業 ・定住外国人日本語教育推進プレクラス・プレスクール事業 ・市民活動支援事業(カラットでの各団体の活発な活動)

戦略3 安全で快適な地域環境創生プロジェクト

安全で快適な地域環境創生プロジェクトでは、便利で快適なまちづくりを自然環境と調和しながら進めるとともに、多様な人が関わる機会を充実させ、地域のつながりを育むための取り組みを進めます。

重要業績評価指標(KPI)

指標名	現状値 2025年度	目標値 2031年度
お互いを尊重し、それぞれの個性や強みを活かしてつながりあえるまちだと思ふ市民の割合	●%	●%
気軽に外出でき、生活しやすいきれいなまちだと思ふ市民の割合	●%	●%
いつまでも住み続けられる、安全で快適なまちだと思ふ市民の割合	●%	●%
転出者数(年間)	●人	●人
転入者数(年間)	●人	●人

施策1:生活に不自由なく便利なまちをつくる

概要	主な取り組み
生活の利便性が高く、不自由なく過ごせるまちをつくるため、ひまわりバスやデマンド型交通「チョイソコとよあけ」事業等を通じて、気軽に外出でき、買い物や通院に困らない環境をつくります。 また、充実した道路環境や市外へのアクセスしやすさ等豊明市の強みを活かして、お出かけしやすいまちとしてアピールします。	・ひまわりバス、チョイソコ ・子どもの送迎 ・タクシー補助 ・都市計画道路整備

施策2:快適な居住環境と自然・公園が調和するまちをつくる

概要	主な取り組み
若年世代や子育て世帯に豊明市を新たな居住地として選んでもらうため、居住誘導区域の整備を促進し、名古屋市に隣接し、国道1号・23号、伊勢湾岸自動車道が横断し、名古屋岡崎線が整備される立地特性を活かし、快適な居住環境を整えとともに、移住・定住に関する取り組みを進めます。 また、花いっぱい運動やフラワーボランティア活動、アダプトプログラム等の活動を通じて、豊かな自然環境や公園に親しむための取り組みを推進します。	・田んぼダム・治水 ・道路整備 ・居住系市街地整備 ・公園施設整備 ・交通安全の推進

施策3:多様な人が関わる機会を充実させ、地域でのつながりをつくる

概要	主な取り組み
便利で安全、快適なまちをつくるためには、豊明市に関わる多様な人や主体がつながり、連携・協働する場面が多く生まれることが重要です。そのため、地域活動や防災・防犯活動、多文化共生等の取り組みを通じて、人と人とがつながる機会を創出するとともに、協働の基盤づくりを進めます。	・自主防災組織 ・防犯ボランティア ・LGBT 研修 ・共生交流プラザ運営事業 ・夏まつり・秋まつり ・市民活動団体支援事業

戦略4 ひとが集うまち創生プロジェクト

ひとが集うまち創生プロジェクトでは、地域への誇りや愛着を育むための取り組み、市内外から人が集う魅力を磨き上げるとともに、市内で働きたくなる、働く場所として選ばれるためのまちづくりに取り組みます。

重点業績評価指標(KPI)

指標名	現状値 2025年度	目標値 2031年度
歴史や文化が受け継がれ、地元愛あふれ訪れたくなるまちだと思ふ市民の割合	●%	●%
自分らしく働く場所があり、産業が盛んな活気あるまちだと思ふ市民の割合	●%	●%

施策1:地域資源を活かしたまちづくりを進め、誇り・愛着を形成する

概要	主な取り組み
地域への誇りや愛着を育み、豊明市に関わる全ての人々が豊明市のことをオススメしたくなるように、古戦場まつりや地域の祭り、イベント等を通じて、子どもから大人まで多世代が地域に関わる機会を提供します。また、花マルシェ等を実施し、地元の農産物や特産品に触れ、身近に感じることができるような機会を創出します。 市内で余暇を過ごしたくなり、市内外から人が集う魅力的なまちを実現するため、都市拠点・地域拠点のブランディングを推進し、それぞれの特色や強みを磨き上げ、発信することで、訪れる人々に新たな楽しみや発見を提供します。	・古戦場まつり ・花マルシェ ・地産地消の推進 ・情報発信(広報、HP、SNS) ・夏・秋まつり ・駅周辺の賑わい ・URとの連携 ・友好自治体交流 ・ふるさと納税

施策2:働きやすい環境を整備し、働く場所として選ばれるまちをつくる

概要	主な取り組み
市民のみでなく市外の人からも働く場所として選ばれるまちを目指し、企業立地支援や社宅整備支援等、働く場所の整備を進めるとともに、雇用を支えるため、市内企業の持続的な経営支援を行い、起業・創業支援に取り組みます。 また、ユニバーサル就労の推進、子連れ出勤の推進等、時代に合った多様な働き方を支える仕組みを充実させるとともに、子どもが豊明の産業に触れ、将来豊明市で働きたいと思ってもらえるような環境づくりを進めます。	・起業・創業支援事業 ・商工業の育成振興事業 ・工業団地整備、企業誘致 ・社宅整備等支援事業 ・保育士等資格取得支援 ・ユニバーサル就労支援 ・子連れ出勤事業 ・職場体験、農業体験